さらなる経営基盤の強化を図り、お客さまに確かな安心をお届けします。

ソルベンシー・マージン比率

1,212.6%

予測を超えたリスクにも対応できる支払余力を確保

ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株価の暴落など、
通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる
「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。
（詳しくはP3をご覧ください）

実質純資産額

3兆5,437億円

健全な経営を維持していくための純資産額を堅持

実質純資産額とは、有価証券や不動産等を時価評価した資産から、
ご契約にかかわる各種負債等を差し引いたものであり、
保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の一つです。
（詳しくはP3をご覧ください）

含み損益
（一般勘定資産全体）

1兆6,955億円

堅実な資産内容で1兆6,955億円の含み益を確保

含み損益とは、保有している資産の時価と帳簿価額との差額を指し、
保険会社の企業体力を表わすものの一つです。
（詳しくはP4をご覧ください）

保険料等収入

1兆5,659億円

前年同期比20%以上の増収

保険料等収入とは、ご契約者から払い込まれた保険料による収益で、
生命保険会社の収益の大部分を占めています。
（詳しくはP5をご覧ください）

基礎利益

1,345億円

上半期の基礎利益は1,345億円

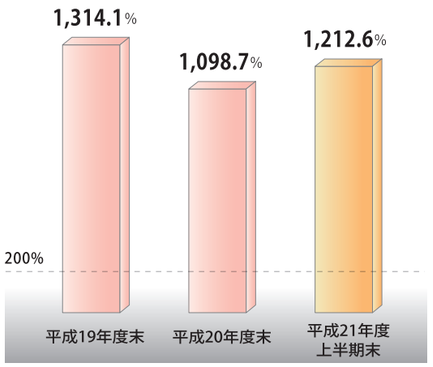
基礎利益とは、保険料等収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、
利息及び配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、
生命保険会社の基礎的な期間損益の状況を表わす指標です。
（詳しくはP6をご覧ください）

ソルベンシー・マージン比率

1,212.6%

予測を超えたリスクにも対応できる支払余力を確保しています。

ソルベンシー・マージン比率の推移



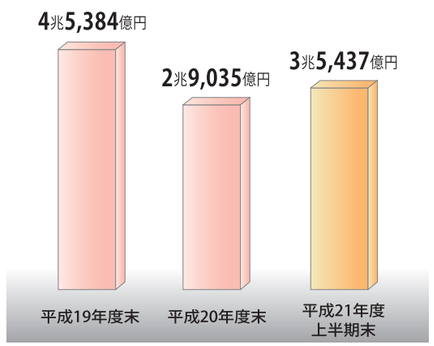
ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株価の暴落など、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。この数値が200%を下回った場合は、監督当局による業務改善命令等の対象となります。
平成21年度上半期末のソルベンシー・マージン比率は1,212.6%と、引き続き1,000%を超える水準となっています。

実質純資産額

3兆5,437億円

健全な経営を維持していくための純資産額を堅持しています。

実質純資産額の推移



実質純資産額とは、有価証券や不動産等を時価評価した資産から、ご契約にかかわる各種負債等を差し引いたものであり、保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の一つです。
平成21年度上半期末の実質純資産額は3兆5,437億円で、一般勘定資産に対する比率は14.8%となっています。

含み損益（一般勘定資産全体）

1兆6,955億円

堅実な資産内容で1兆6,955億円の含み益を確保しています。

各資産における含み損益の状況は次のとおりです。（平成21年度上半期末）

公社債	株式
2,973億円	9,208億円
外国証券	**土地※1**
416億円	4,466億円
その他※2	
△110億円	

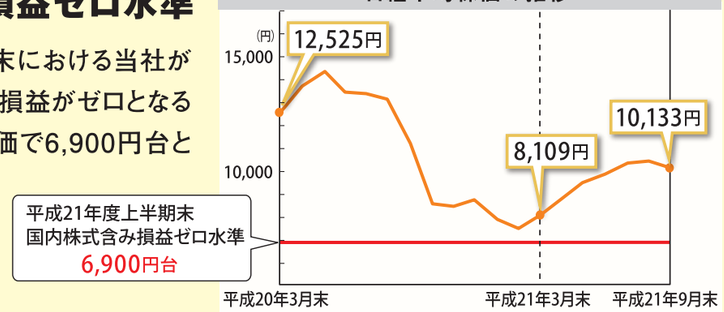
※1 土地には借地権を含めています。
※2 その他は、買入金銭債権・デリバティブ取引等です。

含み損益とは、保有している資産の時価と帳簿価額との差額を指し、保険会社の企業体力を表わすものの一つです。
平成21年度上半期末は、一般勘定資産全体で1兆6,955億円の含み益を確保しています。

国内株式含み損益ゼロ水準

平成21年度上半期末における当社が保有する株式の含み損益がゼロとなる水準は、日経平均株価で6,900円台となっています。

日経平均株価の推移



格付

健全な財務内容で格付会社から高い評価を得ています。

「格付」とは、会社の収益力・財務状況などを、さまざまな角度から総合的に評価し、わかりやすい記号で表わしたものです。

（平成21年11月1日時点）

格付投資情報センター（R&I）	保険金支払能力格付け	A+
日本格付研究所（JCR）	保険金支払能力格付け	A+
スタンダード&プアーズ（S&P）	保険財務力格付け	A−
フィッチ・レーティングス	保険会社財務格付	A
AMベスト社	保険財務力格付け	A（Excellent）

＊「保険金支払能力格付け」（R&I）は、保険会社の保険債務が約定通り支払われる確実性についての意見です。「保険財務力格付け」（S&P）は、保険契約の諸条件に従って支払いを行なう能力に関して保険会社の財務内容を評価した意見です。「保険会社財務格付」は、保険会社の財務力についての評価を表わすもので、保険契約者債務にかかる保険会社の支払能力に対して付与されます。
＊上記の格付は、当社が依頼して取得したものです。
＊格付は、個別の保険契約の加入・解約・継続を推奨するものではありません。
＊格付は、上記時点での格付会社の意見であり、将来的に変更・保留・撤回されることがあります。

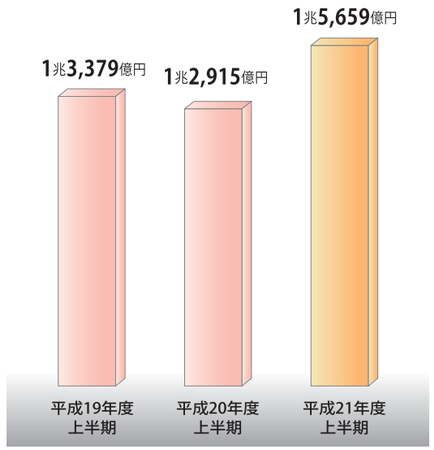
保険料等収入

1兆5,659億円

みなさまにご支持いただき前年同期比20%以上の増収となりました。

保険料等収入とは、ご契約者から払い込まれた保険料による収益で、生命保険会社の収益の大部分を占めています。
平成21年度上半期の保険料等収入は1兆5,659億円と、前年同期比21.2%の増収となりました。これからもいっそうお客さまにご満足いただける取組みに努め、安定した成長をめざします。

保険料等収入の推移



基礎利益

1,345億円

上半期の基礎利益は1,345億円を確保しました。

基礎利益とは、保険料等収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息及び配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、生命保険会社の基礎的な期間損益の状況を表わす指標です。
平成21年度上半期の基礎利益は1,345億円を確保しました。

基礎利益の内訳（三利源）　（単位:億円）

	平成19年度上半期	平成20年度上半期	平成21年度上半期
基礎利益	2,154	1,859	1,345
費　差	520	457	229
危険差	2,004	1,703	1,535
逆ざや	△370	△302	△419

費差　保険料算定時に想定した事業費率に基づく事業費支出予定額と実際の事業費支出との差額

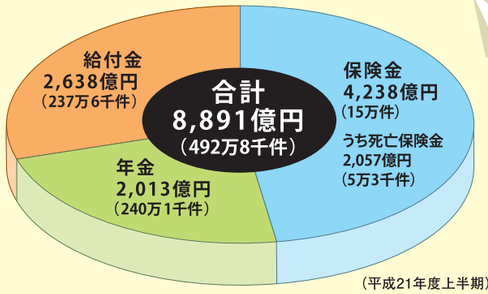
危険差　保険料算定時に想定した保険事故発生率に基づく保険金・給付金等支払予定額と実際の保険金・給付金等支払額との差額

逆ざや　保険料算定時に想定した利率に基づく予定運用収益と実際の運用収益との差額

＊基礎利益から、有価証券等の売却損益・評価損や、保険財務健全化のための臨時的な費用、税金などを加減した最終的な剰余を、事業年度末決算において定款にしたがい配当としてご契約者に還元しています。

お役に立った保険金・年金・給付金

8,891億円



（平成21年度上半期）

平成21年度上半期にお支払いした保険金・年金・給付金の合計額は8,891億円でした（1日あたりのお支払いは約48億円）。これからも確実・迅速なお支払いに努め、お客さまに確かな安心をお届けします。

＊給付金には、入院給付金・手術給付金のほか、ハッピーL.A.ボーナスやお祝金なども含めています。

当社では、お支払い業務における重層的なチェック体制やお客さまへの充実したご説明の実施等、お支払いもれやご請求案内もれのない支払管理態勢を構築しています。また、「安心サービス活動制度」を通じて、保険金・給付金などのご請求がないかを確認する等、確かなお支払いに取り組んでいます。詳細については当社ホームページをご覧ください。

明治安田生命保険相互会社ホームページ　http://www.meijiyasuda.co.jp/

責任準備金の追加積立

逆ざやの早期解消と、財務基盤の強化に取り組んでいます。

平成19年度から3年間にわたり、計画的に責任準備金の積増しを実施し※、逆ざやの早期解消と財務基盤のいっそうの強化に取り組んでいます。平成21年度上半期には、644億円の積立てを実施し、3年間の計画に対する積立率は91.0%となっており、計画どおり進捗しています。

※平成8年4月1日以前にご契約いただいた個人年金保険を対象に、予定利率2.75%を用いて責任準備金を計算して生じた差額を、追加責任準備金として段階的に積み立てています。
なお、平成22年度以降も新たに年金支払を開始するご契約については、年金開始部分につき、年金開始の都度対応します。

運用環境の大幅な変化等に備えた自己資本等の充実について

当社は、価格変動リスクや保険リスク等のさまざまなリスクに備えるため、価格変動準備金や危険準備金等の内部留保を積み立て、健全性の高い財務基盤の構築に努めています。この結果、平成21年度上半期末時点で、内部留保等と追加責任準備金の合計は、1兆6,790億円となっています。